

令和7年度 北海道小学校長会地区活性化支援事業【実践事例レポート】

- 1 報告地区：上川地区
- 2 事例報告学校名：占冠村立占冠中央小学校
- 3 報告者職・氏名：校長 岩谷 孝二
- 4 キーワード：占冠学園

1 はじめに

本校は上川管内の最南端にあり、日高山脈、夕張山地に囲まれた盆地の占冠村の市街に位置する。占冠村は、キャッチフレーズが「自然体感占冠」であり、自然が豊かで、周囲を取り巻く山々の緑や紅葉の景観には目を見張るものがある。また、村内には、雲海で有名なトママリゾートがあり、近年は、年間10万人以上が訪れている。

本校は1911年（明治44年）開校、令和3年度に110周年を迎えた。現在の児童数は31人である。

平成26年度に学校運営協議会が設置され、平成30年度には、「施設分離型小中一貫校」の指定を受け、学校運営協議会も小・中一本化された。さらに、村内3校（占冠中央小学校、占冠中学校、トママ学校）全てがコミュニティ・スクールに指定されており、「占冠学園」として、一部教職員の兼務発令による指導体制の充実や授業協力、合同学習・行事の実施などの子どもたちを育てる取組を進めている。

今回は、占冠学園としての取組を紹介する。

2 小中一貫校としての取組

本村では、占冠中央小学校と占冠中学校を小中一貫校、トママ学校は義務教育学校として、小中一貫教育を推進している。

(1) 兼務発令

占冠中央小学校と占冠中学校では、令和元年度より相互の乗り入れ授業が始まり、中1ギャップ緩和などにつなげ、9年間を見通した教育を実践している。令和6年度は、小学校教員が中学校の音楽の授業、中学校教員が小学校の理科、外国語科の授業を実施するほか、小学校の養護教諭が中学校での保健指導や保健室運営を行い、小学校の事務職員が中学校の村費事務職員の事務作業のサポート等を実施している。

(2) 育成を図る資質・能力の明確化

占冠中央小学校と占冠中学校では、育成を図る資質・能力について、学校運営協議会を中心に検討し、設定した。検討の際には、すでに設定されていた目指す子どもの姿に応じて、それを実現するために重要なことを手掛かりにして、育成を図る資質・能力について熟議した。

| 目指す子ども像 | 設定された育成する資質・能力 |
|--------------------------|----------------------|
| 自分らしさをもち、進んで挑戦するたくましい子ども | 自己肯定感、チャレンジ精神、自主性 |
| 思いやりをもち、周りの人たちとかがわる子ども | コミュニケーション能力、協調性、相互尊重 |
| 夢をもち、これからの時代を歩み続ける子ども | 広い視野をもつ、レジリエンス |

(3) 総合的な学習の時間の教育課程の検討

令和6年度に、占冠中学校では「探究」の活動を実施していくこととなった。その探究の学習で、生徒が問いを見出す際に、小学校でのふさと学習との関連を図る必要性が生まれた。それがかきかけで、小学校、中学校それぞれの総合的な学習の時間の教育課程の見直しを図られ、児童生徒の7年間を見通した活動につながる事となった。

(4) 小・中合同運動会、小・中文化発表会の実施

令和5年度より、合同で運動会を実施している。中学生が全力で競技に取り組むおかげで、中学生は小学生の憧れの存在となり、競技に精一杯に取り組むよき雰囲気が醸成されている。

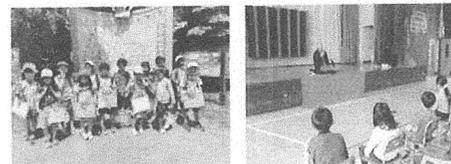
昨年度までは別々に行われていた占冠中央小学校の学習発表会、占冠中学校の学校祭が、令和7年度から、文化発表会として合同で行われることとなった。会場の準備、会場を移動しての練習の段取り、楽器や道具類の移動など、乗り越えるべき課題は多いが、活動をお互いに見ることは、小学生、中学生、共に得るものは多いと考えている。

3 組織を生かした取組

本村3校は、学校規模やその地域性を生かしながら、様々な教育活動を推進している。また、占冠村教育研究会、占冠村へき地・複式教育研究連盟などの組織もある。これらの組織を生かしながら、活動を通して交流する機会も多い。

(1) 占冠村教育研究会

夏季休業中に村内の教職員が会し、研修会を実施した。今年度は、ICTの活用について実践を交流し、クラウド活用の利点を学んだ。



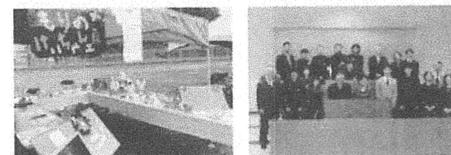
(2) 占冠村へき地・複式教育研究連盟

児童生徒の社会性の向上を目的に交流学習を行っている。トママ学校前期課程と占冠中央小学校、トママ学校後期課程と占冠中学校で体育や音楽の合同授業の他に、オンラインでの話し合い活動を実施し、合同の社会見学、帯広動物園へのバス遠足、宿泊研修、修学旅行を行っており、いろいろな機会に交流を積み重ねている。



(3) 社会福祉協議会との連携

占冠中学校の特別支援学級の自立活動の一環として社会福祉協議会が主催しているふれあい祭りで、生徒本人がデザインしたTシャツ、エコバッグの販売を行った。また、村の紅葉祭りでは、本人が授業で作った作品を出品し販売した。多くの方に購入していただき、生徒にとっても貴重な経験となった。



(4) 村議会との連携

平成30年から占冠中学校とトママ学校の後期課程生を対象にコミュニティ・スクール議会を行っている。生徒が議員となり村議会議員に占冠村に関する質疑を行っている。答弁に対して再質問をし、質の高い議論になった。

4 おわりに

村教育委員会をはじめ、住民による支援のおかげで、へき地・複式の特性を生かした教育環境が整っている。将来、村を巣立つ子どもたちのために、占冠学園として教育活動を更に充実させ、義務教育9年間で、「生きる力」を育てていきたい。